

第687回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2026年10月度 ——

◇ 議題

テレビ番組

「西日本シティ銀行 presents 発見！博多スピリット
～博多のルーツを辿る時空の旅SP～」

放送日時：8月2日(火)午後4時30分～

◇ その他

KBC テレビ2026年度上期の番組種別の公表報告

2026年10月14日（水）開催

九州朝日放送株式会社

第687回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2026年10月14日(水) 15時30分～17時00分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長

森 慎二

副委員長

林 田 真心子

委員

サーズ 恵美子

委員

小 柳 美 佳

委員

松 瀬 萌々香

委員

菊 池 文 隆

委員

久 野 和 代

委員

藤 枝 浩

欠席委員数 0名

放送事業者側出席者名

代表取締役社長

森 君 夫

執行役員 総合編成局長

大 保 一

執行役員 報道制作局・ニュースDX改革推進担当

泗 水 康 信

広報室長

原 由 美 子

KBCM○○○V(制作統括)

下 川 博 之

KBCM○○○V(番組プロデューサー)

豊 原 美 紀

KBCM○○○V(番組ディレクター)

坪 内 大 輔

総合営業局 テレビ営業部

長谷川 泰一

総合編成局 センiorアドバイザー 兼 番組審議会事務局長

加 藤 恭 子

番組審議会事務局(総合編成局)

松 永 俊 郎

4. 議題

(1) テレビ番組

「西日本シティ銀行 presents 発見！博多スピリット
～博多のルーツを辿る時空の旅SP～」

放送日時：8月2日(火)午後4時30分～

- (2) KBC テレビ 2026 年度上期の番組種別の公表報告
- (3) 10月・11月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (4) 9月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (5) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 博多の近現代史や偉人たちの功績が、関係者への丁寧で深い取材をもとに体系的にまとめられており、郷土史を学ぶ上で非常に勉強になる上質な教養番組だった。
- 日常で語り継がれている博多の物語が、当時の写真や地図などを用いて視覚的に分かりやすく紹介されており、近現代史の面白い授業を受けているような感覚で楽しめた。
- 全体が5つの CHAPTER に分かれた構成や時間配分が適切で、インタビューやクイズも交えられており、最後まで飽きずに見ることができた。
- 明太子の話題から無尽の研究へとつながる展開が独創的でシームレスであり、単なる企業史にとどまらない広がりがあった面白かった。
- 福岡という地域を起点としながら、釜山との比較や、日米間における無尽の概念の違いなど、国外との比較によって地域の歴史や制度を捉え直す構成が印象的だった。
- 私利私欲を捨てて奔走した偉人たちの姿や、「人のために」という創業者の熱い心意気に感銘を受けた。現代の福岡にもその精神が息づいていることを誇らしく感じた。
- 偉人たちのつながりが物語仕立てに整理されており、まさに「スピリット」というタイトルにふさわしい構成だった。
- 宮本アナウンサーと森口博子さんの掛け合いがスムーズで、森口さんのリアクションも素晴らしく、見ていて楽しい気持ちになった。
- 福岡にゆかりのある近藤サトさんを声のみで起用するなど、番組全体の人選に工夫が感じられ、ナレーションも素晴らしかった。
- 知らない情報が数多く含まれており、自分も誰かについて教えたいような事例が満載で、教育的な素材としても生かせるのではないかと感じた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 博多駅移転を航空写真で説明する場面は、地理に不慣れな視聴者や配信で見る人のためにもう少し時間をとって見せてほしかった。

- 偉人たちの思いが、再開発など現代の福岡の独自の取り組みにどう反映されているのか、当時の背景も含めてさらに深掘りしてほしかった。
 - 「博多スピリット」を卓越した男性商人だけでなく、女性や市井の人々など多様な要素も含めて描くことで、より立体的に伝えられるのではないかと感じた。
 - テロップやナレーションの言葉の表現について、文脈や事実関係に照らして少し違和感を覚える箇所があった。
 - 番組の終盤がスポンサー企業の紹介のように感じられた部分があったが、一社提供番組における企画の成り立ちや企業との関わり方について知りたいと思った。
 - 企業の歴史を起点に地域の文化をひもとく企画を他企業でも展開してほしい。また、誰もが知る大きな物語だけでなく、小さな物語を拾い上げるような番組も見たい。
- などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 西日本シティ銀行のビル完成のタイミングで「歴史」をテーマにした番組制作の打診がありスタートした。
 - 博多の歴史をひもとく中で西日本シティ銀行がさまざまな場面で関わっていたため、結果として現在の構成になったが、ローカル局の一社提供番組の場合、全国ネットに比べてスポンサーに寄った演出になる傾向は否めない。
 - 博多の発展を探る中で、「世のため、人のため」という「利他の心」こそが博多のルーツ（根幹）であると思い至り、番組の柱とした。起業家やまちづくりに携わる方々などにも、初心に戻るようなメッセージとして届けたいという思いがあった。
 - テレビが苦手とする「歴史と金融」という映像化しにくい分野に挑戦できたことはよかった。「初出し」情報が多く、そのことが高い視聴率につながったのだと考えている。
 - テロップの「国会を通せば」や「地場銀行」という言葉は、取材対象者や専門家の発言のニュアンスをそのまま使用したもの。より丁寧に表現すべきだったと反省している。
 - 歴史の主体として女性を描く視点について、偉人を支えた妻のエピソードなど、そうした切り口での第2弾も検討したいと考えている。
 - 「無尽」の抽選球は別の番組で紹介したことがあり、以前から深掘りしたいと考えていた。専門家の先生も実物を見たことがなく、文献を取り寄せて証明していただいたことで、偶然にもあのリアクションを撮影することができた。
 - 西日本無尽の初代社長・東令三郎氏については記録が乏しく、当時の経緯は専門家の見解による部分が大きかった。しかし、放送後にご子孫から連絡があり、今後さらに歴史の解明が進むのではないかと期待している。
 - 歴史番組を柔らかく表現するという挑戦の中で、森口博子さんと知識豊富な宮本アナウンサーの掛け合いが非常にうまくいったことが、高評価につながったと感じている。
- などの説明を行いました。